

教員研究活動一覽

2023. 1 - 12

基盤看護学領域

看護教育学分野

看護教育学分野は教授1名(林), 准教授1名(井村), 兼務助教1名(松田)の3名で運営している。そして, 大学院看護学専攻(看護教育学分野)博士前期課程には1年生2名, 2年生2名が在籍している。各学年に1名ずつCNEコースの院生がいる。また, 博士後期課程には3年生5名が在籍しており, うち2名(看護師の自律的学習動機づけ: 宮村, 新人看護師の医療安全行動: 堀)は9月に学位(博士)を取得することができた。他3名のうち, 1名は調査を終えて論文執筆中であり, 他の2名は研究倫理審査提出中あるいは提出準備中である。科研費の支援を受けている「共感性とコンフリクト(林)」「看護学生のコミュニケーション(井村)」については論文執筆を終え, 学会発表「リハビリテーション病棟での医療チームにける集団内葛藤に対する看護師とセラピストの認知の比較」「Communication Difficulties of Nursing Students by Reflecting the Interactions between Students and a Simulated Patient with an Instructor: A Pilot Study」および海外投稿中である。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
消極的職業選択で入学した看護系大学生の職業決定プロセス	2023年3月	日本医学看護学教育学会誌, 31(4): 13-22	牛場 かおり, 林 智子, 井村香積
新人看護師の看護技術に対する自己評価と指導者による他者評価の評価基準の違い	2023年3月	三重看護研究会誌 6(1): 11-21	西山和成, 井村香積, 林 智子

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者・共 著 者 名
看護教育担当者による新人看護師の学習を支援するための仕事の割り当て	2023年3月	三重看護研究会誌 6(1): 22-30	松田未来子, 林 智子, 井村香積
地域医療教育におけるオンライン実習の医学科学生への学習効果—オンサイトとオンライン実習との比較—	2023年3月	三重大学高等教育研究 29: 55-63	森尾邦正, 松田未来子, Zayar Linn, 堀 浩樹

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開催地)	発 表 者 名
Communication Difficulties of Nursing Students by Reflecting the Interactions between Students and a Simulated Patient with an Instructor: A Pilot Study	2023年11月	INC2023 The 14th international Nursing Conference (Soul)	Imura Kazumi, Hayashi Tomoko, Matsuda Mikiko
管理職経験を重ねた看護師長の職務上の困難とその対処	2023年12月	第43回日本看護学術集会(山口)	濱田美穂, 林 智子
看護管理者としての副看護師長の成長プロセス—看護師長の副看護師長時代の振り返りから—	2023年12月	第43回日本看護学術集会(山口)	服部礼佳, 林 智子

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
リハビリテーション病棟での医療チームにける集団内葛藤に対する看護師とセラピストの認知の比較	2023年12月	第43回日本看護学術集会(山口)	林 智子, 井村香積, 松田未来子

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
看護学実習教育における学生の思考力を伸ばす指導	鈴鹿医療科学大学 実習連絡調整会議	2023年3月	林 智子	大学教員および実習指導者

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
科研費基盤研究(C)	共感的葛藤場面における看護師の共感と他者理の捉え直しが援助行動に及ぼす影響	林 智子, 井村香積
科研費基盤研究(C)	看護学生の深い自己理解をもたらすコミュニケーション教育方法の開発	井村香積, 林 智子, 牧野孝俊, 松田未来子, 仲 律子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会	理事長(4月末まで)	林 智子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三医看同窓会	役員	松田未来子
令和5年度 レベルIV「日常ケアから看護研究へ」研修 三重大学医学部附属病院看護部	個別指導	松田未来子
公立西知多看護専門学校	非常勤講師	井村香積
三重看護専門学校	非常勤講師	井村香積

実践基礎看護学分野

実践基礎看護学分野は、教授（榎屋・福録）、講師（松裏）、助教（種田）の4名で運営している。本分野は、悪性腫瘍を含む血液疾患や一般内科疾患を抱える患者を全人的に支援する看護実践に必要な課題を探究する研究（榎屋）、疾病・障害・加齢等による生活上の問題を有する人々に、リハビリテーション看護の視点から看護支援方法や予防的看護システムの構築を探究する研究（福録）、生体リズム、術後せん妄予防ケアや睡眠促進ケアなどICU入室患者の看護に関する研究（松裏）、看護技術教育、リンパ浮腫に関する研究（種田）と幅広いテーマで研究に取り組んでいる。また、大学院生在籍者数は4名であり、博士前期課程・後期課程全院生と教員4名で研究の進捗状況を定期的に話し合う機会を持っている。今年度、1名の学生が看護学基礎ゼミナールⅡにおいて、文献クリティークや卒論発表会への参加、各教員の研究内容、研究手法について触れる機会を通して、研究への興味を高めることができた。

<原著>

学術論文の名称	発行年月	発表誌名 巻(号):頁	著者・共著者名
Myocardial extracellular volume in the longitudinal assessment of amyloid burden: a case for caution	2023年4月	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 24(5): e91.	Nakamori S, Fujimoto N, Ishida M, <u>Masuya M</u> , Dohi K.

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号):頁	著者・共著者名
第112回看護師国家試験問題解説国家試験対策 e-Learning「N Plus」	2023年5月	メディカ出版	福録恵子, 松裏 豊, <u>種田ゆかり</u> , 高村夢香, 佐上裕子

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
日本の医療分野における Shared decision making の概念分析	2023年8月	第49回日本看護研究学会学術集会 (WEB)	高村夢香, 林 智子, <u>福録恵子</u> , 榎屋正浩, 松裏 豊, <u>種田ゆかり</u> , 佐上裕子, 都築亜美
急性期病棟に勤務する看護師がターミナルケアを行う上での困難要因と取り組みについて	2023年11月	第54回日本看護学会学術集会 (横浜市)	谷口菜摘, <u>種田ゆかり</u> , 野津英香, 中川乃梨子, 西山和成, 向井綾香
Using pre- and post-tests to evaluate the effects of the same e-learning sessions with 6-month intervals twice for students in multiple healthcare disciplines to support communication for people with ALS	2023年12月	34th International Symposium on ALS/MND (Basel, Switzerland)	Takemasa ISHIKAWA, Yugo NARITA, Tamotsu IMURA, Yuji TANAKA, Michiko NAKAI, <u>Keiko FUKUROKU</u>

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
今日からはじめる骨活！ 一骨と筋肉の健康を保ち骨粗 鬆症を予防するためのポイン トー 第1回	健康講座・骨粗鬆症予防 湯元榊原館	2023年5月	福録恵子	市民
今日からはじめる骨活！ 一骨と筋肉の健康を保ち骨粗 鬆症を予防するためのポイン トー 第2回	健康講座・骨粗鬆症予防 湯元榊原館	2023年7月	福録恵子	市民
今日からはじめる骨活！ 一骨と筋肉の健康を保ち骨粗 鬆症を予防するためのポイン トー 第3回	健康講座・骨粗鬆症予防 湯元榊原館	2023年10月	福録恵子	市民
健康寿命をのばそう！骨粗鬆 症と筋肉量低下の深い関係	？「発見塾」三重大学シリー ズ津市教育委員会	2023年11月	福録恵子	市民
転倒・骨折を防ぐ運動や生活 を考える「科学的看護」とは？	夢ナビプログラム	2023年11月	福録恵子	高校生

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2020年～2023年度 日本学術振興会科学研究費補助 金（基盤研究C）	看護師が関節リウマチ患者に行う生物学的製剤自己 注射指導プログラムの開発	高村夢香，神崎初美， 白尾久美子，福録恵子， 榊屋正造，中島亜矢子
2022年度～2024年度 日本学術振興会科学研究費補助 金基盤研究（C）	プロテアソーム阻害剤による味覚障害の発症に関与 する要因の解明と看護介入	榊屋正造
2022年度～2024年度 日本学術振興会科学研究費補助 金基盤研究（C）	午睡（Nap time）導入による睡眠覚醒サイクル改善 とせん妄予防効果の検証	松裏 豊
2022年～2024年度 日本学術振興会科学研究費補助 金（基盤研究C）	AI技術を活用した骨粗鬆症患者のセルフイメージ シミュレーションシステムの開発	福録恵子，成田有吾， 川中普晴
2023年度～2026年度 日本学術振興会科学研究費補助 金基盤研究（C）	上下肢挙上保持の効果検証とセルフケア向上のため の簡易挙上保持用具の考案	種田ゆかり
公益財団法人 杉浦記念財団 第12回杉浦地域医療振興助成	多職種連携による骨粗鬆症予防に向けたセルフイメー ジ強化プログラムの構築	福録恵子，隅田ひとみ， 高見幸一郎，中村泰子， 森 優子，川中普晴
2023年度 学内若手奨励研究費交付金（天 理医療大学医療学部看護学科）	高齢在宅療養者のケアの場面における訪問看護師の “におい”の看護判断に関する研究	佐上裕子，横井弓枝， 福録恵子，内田宏美

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会誌	査読委員	福録恵子
みえモデルリカレント研修事業 令和5年度在宅看護研修会	研修会事務局（企画運営）	福録恵子, 安積陽子, 江藤由美, 村端真由美, 井村香積, 種田ゆかり

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本骨髄バンク	バンクドナーのコーディネート	榎屋正浩
公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会	基礎看護学実習指導の方法（講師）	福録恵子
レベルⅢ「日常ケアから看護研究へ」研修 三重大学医学部附属病院看護部	プレゼンテーションについて（講師）	福録恵子
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	基礎看護学 科学的思考の基盤 看護と ICT（非常勤講師）	福録恵子
社会医療法人畿内会 岡波専門学校	看護と ICT（非常勤講師）	種田ゆかり
令和5年度 附属病院看護部教育 クリニカルラ ダー研修「看護研究」	個別指導（講師）	種田ゆかり

看護管理学分野

- ①看護管理実践の質的向上に貢献できる研究
- ②看護管理学の発展に貢献できる研究
- ③診療報酬・介護報酬における看護の評価の根拠となる看護管理に関連した研究
- ④看護制度・政策に貢献できる研究

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
EPA 看護師の効果的な人的資源管理の鍵となる要因の探求	2023 年 1 月	日本医療・病院管理学会誌 60(2)	宮田千春
国立大学病院の一般病棟に勤務する短時間勤務看護師の専門職的自律性に関連する要因の探索	2023 年 1 月	日本医療・病院管理学会誌 60(2)	多久和有加, 宮田千春
Challenges and career consequences of internationally educated nurses: Empirical research qualitative.	2023 年 8 月	Nursing Open 43(3): 305-312	<u>Miyata C.</u>

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
Exploration of effective leadership of nurse administrator in Geriatric Health Service Facilities.	2023 年 3 月	The 6th International Academic Conference on Management and Economics.(UK)	<u>Miyata C.</u>
Key factors for effective leadership of nurse managers in Geriatric Health Service Facilities.	2023 年 3 月	3rd Edition of Singapore Nursing Research Conference. (Singapore)	<u>Miyata C.</u>

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本看護科学学会	査読委員	宮田千春
日本看護管理学会	学会誌編集委員会副委員長	宮田千春

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
鈴鹿医療保健科学大学大学院	非常勤講師	宮田千春
三重大学医学部附属病院看護部 「ラダーⅣ リーダーシップ研修」	講師	宮田千春
三重大学医学部附属病院看護部 「ラダーⅢ リーダーシップ研修」	講師	宮田千春

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重大学医学部附属病院看護部 「日常ケアから看護研究へ」	研究指導	宮田千春
三重県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	講師	宮田千春

実践看護学領域

がん看護学分野

がん看護学分野では、終末期のがん関連症状に対する看護支援に関する研究をはじめ、各種レビュー手法を用いた研究、がんサバイバーや家族・遺族の強みに関する研究、ACPに関する研究、緩和ケア教育に関する研究、がんゲノム医療における看護支援の開発に研究に取り組み、その成果を学会発表および論文にて報告してきた。また、ガイドライン作成における成果を各種学会等で普及啓発し、また、論文文化に繋げた。

<原 著>

学術論文の名称	発行年月	発表誌名 巻(号):頁	著者・共著者名
How Has the Covid-19 Pandemic Influenced Nursing Students' Academic Experience and Career Choices? A Qualitative Descriptive Analysis.	2023年1月	Teach Learn Nurs 18(1):30-36	Kobayashi M, Koga Y, <u>Kako J</u> , Kakeda T, Kiyohara H, Kimura Y, Ishida M, Tsubaki M, Nishida Y, Harada K, Wakiguchi Y, Endo Y, Ito Y, Sasaki S, Kajiwara K, Hamanishi S, Yamanaka M.
Impact of taste/smell disturbances on dietary intakes and cachexia-related quality of life in patients with advanced cancer	2023年1月	Supportive Care in Cancer 31(2):141	Otani H, Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tataru R, Kessoku T, Matsuda Y, Tagami K, Mori M, Taniyama T, Nakajima N, Nakanishi E, <u>Kako J</u> , Shirado AN, Yokomichi N, Miyashita M
Development and validation of questionnaires for eating-related distress among advanced cancer patients and families	2023年2月	J Cachexia Sarcopenia Muscle 14(1):310-325	Amano K, Morita T, Miura T, Mori N, Tataru R, Kessoku T, Matsuda Y, Tagami K, Otani H, Mori M, Taniyama T, Nakajima N, Nakanishi E, <u>Kako J</u> , Ishiki H, Matsuoka H, Satomi E, Hopkinson JB, Baracos VE, Miyashita M
Systematic review and meta-analysis of the efficacy of benzodiazepines for dyspnea in patients with cancer.	2023年3月	Jpn J Clin Oncol 53(4):327-334	Yasuda S, Sugano K, Matsuda Y, <u>Kako J</u> , Takagi Y, Watanabe H, Kasahara Y, Goya S, Kohara H, Mori M, Nakayama T, Yamaguchi T
Current Management Options for Dyspnea in Cancer Patients.	2023年6月	Curr Treat Options Oncol 24(6):565-579	Mori M, Miwa S, Ikari T, <u>Kako J</u> , Hasegawa T, Matsunuma R, Suzuki K, Matsuda Y, Watanabe H, Morita T, Yamaguchi T
Psychosocial Factors and the Need for Multidisciplinary Support in Nutrition Counselling for Cancer Chemotherapy Patients.	2023年6月	Nutrients 15 (12):2712	Koshimoto S, Yamazaki T, Amano K, <u>Kako J</u> , Arimoto M, Saitou K, Hashizume A, Takeuchi T, Matsushima E

Efficacy of supplemental oxygen for dyspnea relief in patients with advanced progressive illness: A systematic review and meta-analysis	2023年7月	Respir Investig 61(4): 418-437	Hasegawa T, Ochi T, Goya S, Matsuda Y, <u>Kako J</u> , Watanabe H, Kasahara Y, Kohara H, Mori M, Nakayama T, Yamaguchi T
A revision of JPOS/JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.	2023年8月	Jpn J Clin Oncol 30;53(9): 808-822	Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Hirayama T, Kanno Y, Kitaura Y, Inada S, Sugano K, Yoshimura M, Harashima S, Wada S, Hasegawa T, Okamoto Y, Dotani C, Takeuchi M, <u>Kako J</u> , Sadahiro R, Kishi Y, Uchida M, Ogawa A, Inagaki M, Okuyama T
Opioids for the management of dyspnea in cancer patients: a systematic review and meta-analysis	2023年8月	Int J Clin Oncol 28(8): 999-1010	Takagi Y, Sato J, Yamamoto Y, Matsunuma R, Watanabe H, Mori M, Hasegawa T, Matsuda Y, <u>Kako J</u> , Kasahara Y, Goya S, Kohara H, Nakayama T, Yamaguchi T
Safety and Feasibility of Fan Therapy for Dyspnea: A Scoping Review	2023年8月	Cureus 15(8): e43668	Sato T, Taito S, Nakashima Y, Sakai K, <u>Kako J</u>
Are There Changes in the Nursing Managers' Expectations of the Professional Quality of New Graduate Nurses after the Emerging of Infectious Disease Pandemic?	2023年10月	JMA J 6(4): 532-535	Tsubaki M, <u>Kako J</u> , Koga Y, Kobayashi M, Endo Y, Kimura Y, Kiyohara H, Ishida M, Nishida Y, Harada K, Kajiwara K, Ito Y, Wakiguchi Y, Sasaki S, Hamanishi S, Yamanaka M, Kakeda T
Nursing support for breathlessness in patients with cancer: a scoping review	2023年10月	BMJ Open 13(10): e075024	<u>Kako J</u> , Morikawa M, Kobayashi M, Kanno Y, Kajiwara K, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Hori M, Niino M, Suzuki M, Shimazu T
Nursing Support for Nausea and Vomiting in Patients With Cancer: A Scoping Review	2023年11月	Cureus 15(11): e48212	Kobayashi M, Kajiwara K, Morikawa M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, <u>Kako J</u>
Nursing Support for Caregiver Burden in Family Caregivers of Patients With Cancer: A Scoping Review.	2023年11月	Am J Hosp Palliat Care 10499091231215800.00	Kajiwara K, Kobayashi M, Morikawa M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, <u>Kako J</u>
Nursing Support for Pain in Patients With Cancer: A Scoping Review	2023年12月	Cureus 15(11): e49692	Morikawa M, Kajiwara K, Kobayashi M, Kanno Y, Nakano K, Matsuda Y, Shimizu Y, Shimazu T, <u>Kako J</u>
低酸素血症があり呼吸困難を有する進行性疾患患者に対する高流量鼻カニューラ酸素療法の有効性：システマティックレビュー	2023年12月	Palliat Care Res 18(4): 261-269	合屋 将, 中野 泰, 十九浦宏明, 高木雄亮, 渡邊紘章, 松田能宣, 角甲 純, 笠原庸子, 小原弘之, 森 雅紀, 中山健夫, 山口 崇

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
呼吸困難のマネジメントにおける ESMO・ASCOの臨床ガイドラインの 総括	2023年1月	緩和ケア 33(1): 5-10	角甲 純, 山口 崇
Reply to: 'Specific agitation behaviours in dementia differentially contribute to aspects of caregiver burden'	2023年1月	Psychogeriatrics 23(1): 203	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Noto H, Ogata A.
Nurses' attitudes toward the use of robots in healthcare	2023年3月	Nurs Open 10(3): 1936-1937	Yamanaka M, Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Yasumoto T
Comment to: 'How patients with dementia influence caregiver burden using the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System-21 items (DASC-21) and Zarit Caregiver Burden Interview (ZBI)'.	2023年3月	Psychogeriatrics 23(2): 374	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Noto H, Ogata A.
全人的苦痛をもつがん患者に対するコ ミュニケーションを学ぶロールプレイ演 習の効果 病棟看護師4名の事例研究	2023年3月	三重看護学誌 25: 45-50	犬丸杏里, 玉木朋子, 福永稚子, 堀口美穂, 辻川真弓
Part3 エビデンスから考えるがん患者と のコミュニケーション. 1 終末期の患者・ 家族とのコミュニケーションは7つの テーマから戦略を立てることができる	2023年4月	YORi-SOU が ん ナ ー シング 13(4): 52-53	角甲 純
Part3 エビデンスから考えるがん患者と のコミュニケーション. 2 緩和ケア主体 の支援に移行する話し合いの前後で看護 師からの確認やサポートを希望する患者 は過半数	2023年4月	YORi-SOU が ん ナ ー シング 13(4): 54-55	角甲 純
Part3 エビデンスから考えるがん患者と のコミュニケーション. 3 遺族は「迷惑 をかけている」と苦悩する患者に対して 看護者からの負担感へのケアが重要だと 感じている	2023年4月	YORi-SOU が ん ナ ー シング 13(4): 56-8	角甲 純
Reply to: "Unmet supportive care needs among informal caregivers of patients with head and neck cancer in the first 2 years after diagnosis and treatment"	2023年5月	Support Care Cancer 31(6): 359	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Yamashita T, Yamanaka M.
Reply to: "Dyadic effects of social support, illness uncertainty on anxiety and depression among lung cancer patients and their caregivers: a cross-sectional study"	2023年10月	Support Care Cancer 31(10): 609	Kajiwara K, <u>Kako J</u> , Kobayashi M, Yamashita T, Yamanaka M, Etou Y
がん患者の院外不眠対策: 在宅	2023年10月	PROGRESS IN MEDICINE 43: 911-914	角甲 純
特集リサーチエビデンスを看護ケアに活 かす~今とこれから~, 呼吸困難	2023年11月	がん看護 28(8): 702-705	角甲 純

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号): 頁	著者・共著者名
緩和ケア領域における口渇および口腔乾燥に対する新たな支援: 無作為化比較試験	2023年11月	日本緩和医療学会 ニューズレター 101: 47	角甲 純

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
市民を対象としたACPワークショップ ~実際に人生会議を行った人の感想の質的分析~	2023年2月	第37回日本がん看護 学会学術集会(横浜)	武田佳子, 竹内佐智恵, 犬丸杏里, 坂口美和, 船尾浩貴, 玉木朋子, 辻川真弓
造血幹細胞移植を受けた患者の幹細胞への認識	2023年3月	第38回日本がん看護 学会学術集会(横浜)	関根万里子, 坂口美和, 辻川真弓
Effectiveness of Role-play Education on Palliative Care for Competent Nurses	2023年3月	EAFONS 2023 (東京)	Inumaru A, Tamaki T, Tsujikawa M
Role-play Education for Healthcare Professionals in Japan: An Investigation of the Trends and Effectiveness	2023年3月	EAFONS 2023 (東京)	Inumaru A, Sone K
Literature review of psychological support for patients with advanced cancer undergoing tumor genomic profiling	2023年3月	EAFONS 2023 (東京)	Yoshiko Takeda, Takahito Kitajima, Ikuyo Mochiki1, Kayo Inoue, Takumi Fujiwara, Yoshinaga Okugawa, Mayumi Tsujikawa
Effectiveness of end-of-life care simulation for multiple student involvement	2023年3月	EAFONS 2023 (東京)	Tamaki T, Yokoi Y, Inumaru A, Fujii M, Ohno Y, Tsujikawa M
がん患者における薬物療法の皮膚障害に 対する看護支援についてのスコーピング レビュー	2023年6月	第8回日本がんサポー ティブケア学会学術集 会(奈良)	鈴木美穂, 新野真理子, 清水陽一, 堀芽久美, 森川みはる, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 島津太一, 角甲 純
がん患者の呼吸困難に対する看護支援に ついてのスコーピングレビュー: Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会(神戸)	角甲 純, 森川みはる, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 堀芽久美, 島津太一
がん患者の疼痛に対する看護支援につ いてのスコーピングレビュー: Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会(神戸)	森川みはる, 角甲 純, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美子, 松田能宣, 清水陽一, 鈴木美穂, 新野真理子, 堀芽久美, 島津太一

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
がん患者の悪心・嘔吐に対する看護支援 についてのスコーピングレビュー： Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会（神戸）	小林成光，梶原弘平， <u>角甲 純</u> ， 菅野雄介，中野貴美子， 森川みはる，松田能宜， 清水陽一，鈴木美穂， 新野真理子，堀芽久美， 島津太一
がん患者の家族における介護負担に対す る看護支援についてのスコーピングレ ビュー： Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会（神戸）	小林成光，梶原弘平， <u>角甲 純</u> ， 森川みはる，菅野雄介， 中野貴美子，松田 宜， 清水陽一，鈴木美穂， 新野真理子，堀芽久美， 島津太一
がん患者の便秘に対する看護支援につ いてのスコーピングレビュー： Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会（神戸）	中野貴美子，菅野雄介， <u>角甲 純</u> ，森川みはる， 梶原弘平，小林成光，松田能宜， 清水陽一，鈴木美穂， 新野真理子，堀芽久美， 島津太一
がん患者のせん妄に対する看護支援につ いてのスコーピングレビュー： Evidence Practice (EP)-GAP Group Study	2023年6月	第28回日本緩和医療 学会学術大会（神戸）	菅野雄介，中野貴美子， <u>角甲 純</u> ，森川みはる， 梶原弘平，小林成光，松田能宜， 清水陽一，鈴木美穂， 新野真理子，堀芽久美， 島津太一
現代医療の限界状況にいても幸せでいら れる人の体験世界—講演内容の分析—	2023年9月	第28回聖路加看護学 会学術集会（東京）	<u>坂口美和</u> ，川出富貴子
外来通院でセカンドライン以降の化学療法 を継続している患者の自己有用感の様相	2023年10月	日本緩和医療学会 第5回東海・北陸支部 学術大会（浜松）	岡本実保， <u>坂口美和</u> ，辻川真弓 佐橋朋代， <u>角甲 純</u>
看護学生を対象とした終末期ケアシミュ レーション教育の評価：学習効果と感想 の関連	2023年12月	第43回日本看護科学 学会学術集会（下関）	横井弓枝，玉木朋子，藤井 誠， <u>犬丸杏里</u> ，大野ゆう子， 辻川真弓
多人数参加型終末期ケアシミュレーショ ンにおけるケア経験者と観察者の学習効 果の評価	2023年12月	第43回日本看護科学 学会学術集会（下関）	玉木朋子，横井弓枝， <u>犬丸杏里</u> ， 藤井 誠，大野ゆう子， 辻川真弓

<講演等>

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
身体症状に対する看護ケア の最新エビデンス UP TO DATE	第28回日本緩和医療学会学術大 会	2023年7月	<u>角甲 純</u>	学会参加者
呼吸困難に対する非薬物療法	日本緩和医療学会 第5回関西支 部学術大会	2023年9月	<u>角甲 純</u>	学会参加者
スコーピングレビュー	日本地域看護学会第26回学術集 会	2023年9月	<u>角甲 純</u>	学会参加者

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
せん妄ガイドラインを使って みよう！	第 36 回日本サイコオンコロジー 学会総会	2023 年 10 月	井上真一郎, 岡本明大, 角甲 純, 野村優子, 北浦祐一	学会参加者
非薬物療法による症状緩和	日本緩和医療薬学会第 2 回在宅 緩和ケア教育セミナー	2023 年 11 月	角甲 純	学会参加者
家族ケア	三重県がんにおける質の高い看 護師研修	2023 年 6 月	坂口美和	がん医療に関 わる三重県内 の看護師
成人看護学実習指導の方法	三重県保健師助産師看護師実習 指導者講習会	2023 年 9 月	坂口美和	三重県内の看 護専門職

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2025 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（B）	終末期のがん関連症状に対する看護支援におけるエ ビデンスの基盤形成の確立	研究代表者：角甲 純 研究分担者：菅野雄介， 梶原弘平，小林成光， 中野貴美子，松田能宣， 島津太一，清水陽一， 堀芽久美，鈴木美穂， 新野真理子
2021～2023 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	認知症高齢者の在宅介護者における介護行動の可視 化手法の確立	研究代表者：梶原弘平 研究分担者：緒方文子， 角甲 純，原田紀美枝
2021～2024 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	一般市民の人生会議（アドバンス・ケア・プランニ ング）を支援する取り組みとその評価	研究代表者：辻川真弓 研究分担者：松原貴子， 黒澤（犬丸）杏里， 玉木朋子，船尾浩貴， 武田佳子，坂口美和
2022～2024 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	がん遺伝子パネル検査を受ける患者に対する看護支 援の開発	研究代表者：武田佳子 研究分担者：望木郁代， 奥川喜永，辻川真弓， 北嶋貴仁，藤原拓海， 井上佳代，坂口美和
2023～2027 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	通院治療中のがん患者に対する就労継続への看護支 援プログラムによる介入研究	研究代表者：小林成光 研究分担者：林 直子， 増島麻里子，角甲 純
2023～2025 年度科学研究費助成 事業（学術研究助成基金助成金） 基盤研究（C）	看護師を対象とした緩和ケアシミュレーション教育 の評価：オンラインでの試み	研究代表者： 黒澤（犬丸）杏里 研究分担者：玉木朋子， 坂口美和，武田佳子， 辻川真弓
日本緩和医療学会 2022 年度緩和 ケアに関する研究助成	がん患者における片側性胸水に伴う呼吸困難に対す る体位交換の有効性に関するランダム化クロスオー バー比較試験	研究代表者：角甲 純

研究補助機関名	研究課題	研究者名
令和5年度三医会・三重医学研究振興会合同による研究助成 緑の風記念三重医学研究振興会賞	がん患者の呼吸器症状の緩和に関する研究	研究代表者：角甲 純

<学会における活動>

名称	活動内容	活動者名
日本がん看護学会	ガイドライン委員会 急性放射線皮膚炎のケアに関する合同ガイドライン 作成ワーキング委員 委員長	角甲 純
日本がん看護学会	がん看護技術・開発委員会委員	角甲 純
日本がん看護学会	代議員	角甲 純
日本がん看護学会	査読委員	角甲 純
日本がん看護学会	選挙管理委員会委員	角甲 純
第38回日本がん看護学会学術集会	査読員	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	ガイドライン策定委員会せん妄小委員会ガイドライン委員	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	啓発・ホームページ担当委員会	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	代議員	角甲 純
日本サイコオンコロジー学会	第36回日本サイコオンコロジー学会総会ワーキンググループ委員「1. 医学ケア」	角甲 純
日本緩和医療学会	Palliative Care Research 編集委員会	角甲 純
日本緩和医療学会	呼吸器症状ガイドライン改訂WPG員	角甲 純
日本緩和医療学会	学術大会支援メンバーWG WG員	角甲 純
日本緩和医療学会	第28回日本緩和医療学会学術大会支援メンバーWG WG員	角甲 純
日本緩和医療学会	関西支部支部運営委員会(WPG) 支部運営委員(WPG)	角甲 純
第28回日本緩和医療学会学術大会	座長「緩和ケアの臨床に高流量鼻カニュラ酸素療法を活かす」	長谷川貴昭, 角甲 純
第28回日本緩和医療学会学術大会	座長「分野2「痛み以外の身体症状」	天野晃滋, 角甲 純
日本看護科学学会	和文誌専任査読委員	角甲 純
日本癌治療学会	制吐薬適正使用ガイドラインSR委員	角甲 純
日本がん看護学会	代議員	坂口美和

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
第 38 回日本がん看護学会学術集会	査読委員	坂口美和
日本死の臨床研究会	査読委員	坂口美和
第 2 回医療における魂・霊性研究会	企画・運営	坂口美和

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
2023 年度三重大学医学部看護学科オープンキャンパス 緩和ケアって何だろう？	模擬授業	角甲 純
レベル IV 「日常ケアから看護研究へ」 量的研究とは	講義	角甲 純
青海社「緩和ケア」	編集委員	角甲 純
青海社「緩和ケア」33 巻 1 号 (2023 年)	編集	山口 崇, 角甲 純
青海社「緩和ケア」2023 年 6 月増刊号	編集	森田達也, 角甲 純
青海社「緩和ケア」33 巻 4 号 (2023 年)	編集	山口 崇, 角甲 純
公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会	看護過程：講師	辻川真弓, 犬丸杏里
三重県看護協会 研究倫理委員会	委員	坂口美和
ELNEC-J コアカリキュラム	実施責任者	坂口美和
ELNEC-J コアカリキュラム (エンド・オブ・ケアにおける看護)	講義	坂口美和
レベル IV 「日常ケアから看護研究へ」 質的研究	講義	坂口美和
三重県内病院を結んだ多職種緩和ケアテレビカンファレンス	主催	坂口美和, 角甲 純
三重がん看護専門看護師会	顧問	角甲 純, 坂口美和
医療における魂および霊性探求プロジェクト	委員	坂口美和

成人看護学分野

成人看護学分野では周術期のケアの連携に関する研究を推進するために、術後管理の状況のVR(verial relity)教材作成、急性期看護を次の療養機関につなぐためのサマリーの有り方についての研究の基礎かためを実施した。

分野に所属する大学院生の研究として、ALS患者の意思決定に関与する価値観、薬剤管理における看護師の認知状況、不妊治療に関連する支援の在り方、ロボット手術における医療者間のコミュニケーションに関するものを支援した。

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
市民を対象としたACPワークショップ ～実際に人生会議を行った人の感想の質 的分析～	2023年2月	第37回日本がん看護 学会学術集会(横浜)	武田佳子, 竹内佐智恵, 犬丸杏里, 坂口美和, 船尾浩貴, 玉木朋子, 辻川真弓

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021～2023年度科学研究費助成 事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	一般市民の人生会議(アドバンス・ケア・プラン ニング)を支援する取り組みとその評価	研究代表者: 辻川真弓 研究分担者: 松原貴子, 黒澤(犬丸)杏里, 玉木朋子, 船尾浩貴, 武田佳子, 坂口美和
2021～2024年度科学研究費助成 事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	仮想現実感(VR)による在宅リハビリテーション 促進策の開発	研究代表者: 船尾浩貴 研究分担者: 島岡 要, 百崎 良, 川本英嗣, 辻川真弓

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
介護における基礎技術(神奈川県藤沢市ぐるーぷ藤)	講習会講師	竹内佐智恵

母性看護・助産学分野

母性看護学・助産学では、教授（安積）、准教授（齋藤）、助教（近藤）、助教（高橋）の4名で運営している。本分野では、性と生殖の観点から女性のライフサイクル、胎児期から成熟期に焦点を当て、対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、女性のライフサイクル全般を対象に、現象を理解し、介入方法の検討に関して研究活動を行なっている。

具体的には、周産期にある対象とその家族の睡眠リズムとメンタルヘルス、母乳育児支援に関する共同研究（安積）、異文化下での出産経験（齋藤）、周産期の冷え症（近藤）、帝王切開を受ける女性への支援（高橋）をテーマに研究を進めている。大学院（博士前期課程・後期課程）の在籍者数は5名である。大学院生が取り組む研究は、定期的に合同で研究の進捗状況を検討する機会を持っている。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
教員が捉える助産師学生が行うバースレビュー内容の推移と教員の役割	2023年1月	母性衛生 63(4): 840-848	中澤貴代, 安積陽子

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
資料 妊娠中絶に携わる看護職の苦悩に関する文献検討	2023年3月	三重看護学誌 25: 51-58	清野真由, 近藤桃子, 安積陽子
研究報告 わが国の病院・診療所・助産所勤務助産師における妊婦の冷え症に対する認識の検討—テキストマイニングによる自由回答の分析—	2023年3月	三重看護研究会誌 6(1): 37-48	近藤桃子, 安積陽子, 谷村 晋, 村端真由美

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開催地)	発 表 者 名
Fathers' experiences of attending birth at maternal clinics in Japan	2023年3月	26th East Asia Forum of Nursing Scholars 2023 (東京都 オンライン)	Kondo A, Matsuo F, Matsushita M, Kogahara T, Saito M
A national fact-finding survey on Japanese midwives' awareness and practice for prevention and improvement of "Hiesho"(ポスター発表)	2023年3月	26th East Asia Forum of Nursing Scholars 2023 (東京都 オンライン)	Kondo M, Asaka Y, Tanimura S, Murabata M
修正年齢1歳6ヵ月における早産出生児の睡眠特性	2023年6月	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会(名古屋市)	安積陽子, 中川真智子, 太田英伸, 大石芳久, 平田倫生, 三谷裕介, 水島正人, 安達裕行, 新井浩和, 安藤明子, 長和 俊, 与田仁志, 草川 功
Challenges in utilizing artificial intelligence in nipple trauma evaluation	2023年6月	32nd ICM Triennial Congress 2023 (Indonesia)	Nakamura M, Asaka Y, Kondo Y, Ebina Y

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
診療所での立ち会い出産における女性の経験	2023年7月	第20回和歌山県母性衛生学会学術集会 (和歌山市)	近藤 萌, 松尾風香, 松下真子, 小川原つぐみ, 齋藤真希
予定帝王切開で出産した女性の出産体験 一児に対する思い	2023年9月	第85回三重県小児保健協会学術集会 (津)	高橋恭子
極低出生体重児における活動・睡眠特性 と精神発達の関係性について	2023年9月	第45回日本睡眠学会 学術集会 (横浜)	中川真智子, 太田英伸, COI stream group (安積陽子)
コロナ禍のアメリカ合衆国での日本人の 出産経験〜ピアサポートの効力と限界〜	2023年10月	第37回日本助産学会 学術集会 (東京都 オンライン)	齋藤真希
周産期母子医療センターに勤務する助産師のワーク・エンゲイジメントと専門性との関連	2023年10月	第37回日本助産学会 学術集会 (東京都 オンライン)	福屋有希, 安積陽子
ワークショップ3 (編集委員会企画) 選ばれる学会誌をめざして	2023年10月	第37回日本助産学会 学術集会 (東京都 オンライン)	春名めぐみ, 白石三恵, 疋田直子, 藤田 愛, 高岡智子, 安積陽子, 米澤かおり, 大田えりか
シンポジウム4「科学で育児を支える」 早産児の睡眠発達と育児支援	2023年10月	第64回日本母性衛生 学会総会・学術集会 (大阪)	吉村優子, COI stream group (安積陽子)
極低出生体重児の睡眠特性と発達との関連性	2023年11月	第67回日本新生児成 育医学会・学術集会 (横浜市)	三谷裕介, 安積陽子, 中川真智子, 平田倫生, 与田仁志, 大石芳久, 水島正人, 安達裕行, 新井浩和, 安藤明子, 瀬戸康貴, 兼次洋介, 古瀬優太, 長和 俊, 太田英伸

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2022年～2025年度 日本学術振興会科学研究費助成 事業 (若手研究)	異文化下で出産する女性の対処についての理論化	研究代表者: 齋藤真希
2022～2023年度 日本学術振興会科学研究費助成 事業 (若手研究)	妊婦に対する冷え症ケアと妊娠経過に関する研究	研究代表者: 近藤桃子
2023年～2025年度 日本学術振興会科学研究費助成 事業 (基盤研究 (C))	助産学生へのバースレビュー実践能力の獲得に向け たシミュレーション教育の開発	研究代表者: 安積陽子

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本助産学会	編集委員	安積陽子
日本助産学会	代議員	安積陽子
日本母性衛生学会	代議員	安積陽子
日本母性衛生学会	査読委員	安積陽子
第6回三重看護研究会学術集会	企画委員	安積陽子
医学と生物学	査読委員	安積陽子
Journal of Pre-Clinical and Clinical Research	査読委員	安積陽子
三重母性衛生学会	会長（安積）、学会事務局	安積陽子, 齋藤真希, 高橋恭子, 近藤桃子
日本助産学会	専任査読委員	齋藤真希
日本国際看護学会	査読委員	齋藤真希
和歌山保健看護学会	評議員	齋藤真希

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
公益社団法人日本助産師会	倫理審査委員会委員長	安積陽子
厚生労働省医政局看護課	試験委員	安積陽子
三重県小児保健協会「産後ケアを考える」(パネルディスカッション)	パネリスト	福島富士子, 田村まり, 福山孝治, 高橋恭子
令和5年度三重県妊産婦のほっとスポット構築モデル事業	県内の児童福祉施設における相談支援	高橋恭子

小児看護学分野

小児看護学分野では、小児がんの長期フォローアップや炎症性腸疾患のある子どもの生活支援等の他、終末期ケアなど小児緩和ケアに関する研究に取り組み、その成果を学会発表、論文投稿した。また、今年度は、日本で初めての小児緩和ケア看護師教育プログラムを三重大学主催で開催し、その成果に関する評価研究を続けている。研究的取り組みは、学内教員だけでなく附属病院など臨床の看護師と協働することでより実践にいかすことのできる成果をもたらした。また、三重県内の小児医療に携わる看護師を対象とした講義の他、他大学大学院での授業担当など、小児看護の教育活動にも広く従事してきた。さらに、三重県内の小児看護に携わる看護職が集い、健康問題や障害のある子どもとその家族への看護について考える場として『みえ小児看護勉強会』を企画開催し、ネットワークづくりにも力を入れた。

<原著>

学術論文の名称	発行年月	発表誌名 巻(号):頁	著者・共著者名
Nursing Practice and Care Structure for Children and Their Families in Need of Pediatric Palliative and End-of-Life Care in Japan	2023年1月	Journal of Hospice & Palliative Nursing 25(2):E41-48	Nagoya Y, <u>Matsuoka M</u> , Takenouchi N, Hirata M, Arita N, Kawakatsu K, Furuhashi T, Ishiura M, Nakatani F.

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発行年月	発表誌名 巻(号):頁	著者・共著者名
子どもと家族とともに取り組む非薬物療法による痛みの緩和	2023年3月	小児看護 46(3):310-315	山崎麻朱, 鎌田真紀, <u>松岡真里</u>
NICUに入院している先天性疾患をもつ子どもの両親のネガティブな思いに関する文献検討	2023年3月	三重看護学誌 25:17-25	酒向芽生, <u>村端真由美</u>
わが国の病院・診療所・助産所勤務助産師における妊婦の冷え症に対する認識の検討: テキストマイニングによる自由回答の分析	2023年3月	三重看護学誌 25:37-48	近藤桃子, 安積陽子, 谷村晋, <u>村端真由美</u>

<著書・訳書>

著書・訳書の名称 分担領域	発行年月	発行所名	共著・共訳者名
小児がん看護テキストブック 第2章 小児がんの子ども看護における7つの基盤 VI. 小児がんの子ども・家族とのコミュニケーション 第3章 小児がんにおける治療とケア II. 小児がんの緩和ケア 第7章 特別なニーズを持つ小児がんの子どもへの看護実践 VII. 終末期における在宅ケア	2023年3月	杏林書院	<u>松岡真里</u> 責任編集: 上別府圭子

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
A national fact-finding survey on Japanese midwives' awareness and practice for prevention and improvement of "Hiesho"(ポスター発表)	2023年3月	26th East Asia Forum of Nursing Scholars 2023 (東京都 オンライン)	Kondo M, Asaka Y, Tanimura S, <u>Murabata M</u>
小児へのPCV13導入後の高齢者市中肺炎に対するPPSV23の有効性 多施設共同症例対照研究	2023年4月	第63回日本呼吸器学会学術講演会(東京都)	中島 啓, 鈴木幹三, 青島正大, 村端真由美, 近藤亨子, 大藤さとこ, 福島若葉, 前田章子, 廣田良夫
ELNEC-J小児緩和ケアカリキュラム看護師教育プログラムの開催と内容評価	2023年6月	第28回日本緩和医療学会学術大会(神戸)	松岡真里, 有田直子, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 名古屋祐子, 竹之内直子, 川勝和子, 中谷扶美
ELNEC-J小児緩和ケアカリキュラム看護師教育プログラムが小児緩和ケアの実践に及ぼす効果の検証	2023年6月	第28回日本緩和医療学会学術大会(神戸)	名古屋祐子, 松岡真里, 有田直子, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 竹之内直子, 川勝和子, 中谷扶美
ELNEC-J小児緩和ケアカリキュラム看護師教育プログラム受講後の小児緩和ケア実践の変化 —小児看護経験2-5年目の看護師に焦点をあてて—	2023年7月	日本小児看護学会第33回学術集会(横浜)	名古屋祐子, 松岡真里, 有田直子, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 竹之内直子, 川勝和子, 中谷扶美
サマーキャンプ中の遷延性低血糖を契機に見えられた人為低血糖の1例	2023年7月	第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会(大阪市)	貝沼圭吾, 加藤大也, 林安津美, 稲垣美幸, 村端真由美, 青山幸平, 川地慎一, 李野武彦, 木村那智, 菅 秀
Covid-19流行第7波に開催した糖尿病サマーキャンプにおける感染対策	2023年7月	第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会(大阪市)	渡邊美佳, 東岡 史, 林安津美, 稲垣美幸, 村端真由美, 貝沼圭吾, 菅 秀
当院で治療を受けた小児がん患者の看取りの場所に関する後方視的調査	2023年9月	第65回日本小児血液・がん学会学術集会(札幌)	岩井直子, 松岡真里, 蜂須賀史洋, 辻本光江, 才田聡他
思春期がん患者と関わる看護師のありよう	2023年9月	第65回日本小児血液・がん学会学術集会(札幌)	南部美智子, 松岡真里
小児科外来における小児の衛生行動と保護者の認識 —1歳から就学前までの小児とその保護者に焦点をあてて—	2023年11月	第41回東海外来小児科学研究会(名古屋市)	吉川寛美, 村端真由美, 矢野久子

<講演等>

演題名	講演会名 主催者	講演年月	講演者名	対象
終末期にある小児がんのこども・家族へのケア —こども・家族の体験—	第45回近畿小児・血液がん研究会 近畿小児・血液がん研究会	2023年3月	松岡真里	小児科医, 看護師, 患者家族, 一般市民, マスコミ

演 題 名	講 演 会 名 主 催 者	講 演 年 月	講 演 者 名	対 象
①子どもと家族が主体であること ②終末期の子どもと家族の体験と看護	第19回小児在宅ケアコーディネーター研修会	① 2023年7月 ② 2023年11月	松岡真里	小児在宅ケアに関わる病院・訪問看護師
こどもの育ち・学びを支える～子どもと家族を主体とした教育と看護の協働～	令和5年度医療的ケアスキルアップ研修 三重県教育委員会	2023年7月	松岡真里	三重県内の特別支援学校・普通学校に勤務する看護師
長期フォローアップに多職種で関わることの意義	JCCG 小児がんサバイバー大規模観察研究市民公開シンポジウム JCCG 日本小児がん研究グループ	2023年11月	松岡真里	小児科医, 看護師, 小児がん経験者・家族, 一般市民, マスコミ
こどもの緩和ケア	Working Together 2023 ～みんなのサバイバーシップ 家族・仲間とともに～第2弾 近畿小児脳腫瘍経験者グループ・ 家族の会 mirale brain	2023/11/1	松岡真里	小児脳腫瘍経験者・家族, ご遺族
終末期にある小児がんをもつ子どもと家族の看護	小児がん看護研修 アドバンス編 兵庫県立こども病院	2023/12/9	松岡真里	小児がん看護に関わる看護師, 保育士

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2019～2022年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)	小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	研究代表者: 松岡真里 研究分担者: 有田直子, 平田美佳, 古橋知子, 石浦光世, 名古屋祐子, 田村恵子, 奈良間美保, 笹月桃子, 岡崎 伸
2021～2025年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(B)	社会情動的スキルの発達を促すプログラムの開発と大規模介入研究による効果検証	研究代表者: 細川隆也 研究分担者: 桂 敏樹, 志澤美保, 塩見美抄, 松岡真里, 尾島俊之, 平和也, 松本有貴
2021～2025年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)	子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	研究代表者: 笹月桃子 研究分担者: 酒井康成, 櫻井浩子, 松岡真里, 加部一彦, 板井孝一郎
2021～2024年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)	在宅で療養する炎症性腸疾患患児の感染予防のための支援方法の構築	研究代表者: 村端真由美 研究分担者: 矢野久子, 加藤はる, 小池勇樹, 妹尾充敏
2022～2025年度 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)	重症心身障害児(者)の痛みを伴う処置場面における緩和ケアの基盤的研究	研究代表者: 大北真弓 研究分担者: 松岡真里, 村端真由美, 岩本彰太郎, 宮崎つた子

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2023～2026年度 科学研究費助成事業（学術研究 助成基金助成金）基盤研究（B）	日本版小児緩和ケア看護師教育プログラムの実装評価と持続可能な教育提供システム構築	研究代表者：松岡真里 研究分担者：有田直子， 平田美佳，古橋知子， 石浦光世，名古屋祐子， 竹之内沙弥香，入江 亘 大北真弓，南部美智子
2023～2025年度 科学研究費助成事業（学術研究 助成基金助成金）基盤研究（C）	日本独自の文化に応じた死が近い子どもと家族のコミュニケーションモデルの構築	研究代表者：平田美佳 研究分担者：松岡真里， 名古屋祐子，古橋知子， 有田直子
2020～2023年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種 政策推進研究事業	ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究	研究代表者：廣田良夫 共同研究者：福島若葉， 大藤さと子，岡田賢司， 中野貴司，原めぐみ， 他8名 研究協力者：斎藤智也， 鈴木幹三，小笹晃太郎， 葛西 健，矢野久子， 村端真由美，他

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①学会の理事		
日本小児がん看護学会	理事 教育委員会委員長	松岡真里
三重県小児保健協会	三重県小児保健学会企画等	松岡真里
②学術雑誌の査読委員など		
日本小児看護学会	専任査読者	松岡真里，村端真由美
日本小児がん看護学会	専任査読者	松岡真里
日本小児保健学会	専任査読者	松岡真里
日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	村端真由美
三重看護学誌	査読委員	松岡真里，村端真由美
第28回日本緩和医療学会学術大会	査読委員	松岡真里
第21回日本小児がん看護学会学術集会	査読委員	松岡真里
日本緩和医療学会	小児緩和ケア WPG 員	松岡真里
日本緩和医療学会	学術大会支援メンバー WG 員	松岡真里
日本小児看護学会	研究奨励賞審査委員	松岡真里
日本小児がん看護学会	教育委員会	南部美智子
③学会における座長		
日本小児看護学会第32回学術集会	テーマセッション座長	松岡真里
第21回日本小児がん看護学会	会長講演座長・シンポジウム座長	松岡真里

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
第 17 回東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	一般演題座長	村端真由美
④学会事務局		
第 23 回三重県小児在宅研究会	世話人	松岡真里
小児在宅ケア研究会	運営委員	松岡真里
日本小児看護学会第 33 回学術集会	企画委員（プログラム委員）	松岡真里
Patient & Family-Centered Care 勉強会	事務局	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子
みえ小児看護勉強会	事務局	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子
東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会	世話人	村端真由美

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
①他大学の非常勤講師		
三重大学教育学部	子どもの保健Ⅰ・Ⅱ	松岡真里, 村端真由美, 南部美智子
京都橘大学大学院	小児看護学演習	松岡真里
松阪看護専門学校	小児看護学Ⅱ・Ⅲ	村端真由美
②研修会の講師（附属病院レベルⅢ講師を含む）		
三重大学医学部附属病院	レベルⅣ 日常ケアから看護研究へ研修	松岡真里
社会福祉法人 びわこ学園	看護部研修	松岡真里
兵庫県立こども病院	ラダーⅢ・Ⅳ研修 小児看護と看護倫理 —倫理的看護実践を目指して—	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅡ研修	『看護倫理』『臨床倫理』について	松岡真里
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	権利擁護と社会的責務	松岡真里
三重大学医学部附属病院	レベルⅤ 日常ケアから看護研究へ研修	村端真由美
三重県立子ども心身医療センター レベルⅢ研修	講師：看護研究	村端真由美
③ボランティア顧問 等		
三重ファミリールームボランティアの会	役員	村端真由美
U-cam（東海地区小児糖尿病サマーキャンプ研究会学生部会）	顧問	村端真由美
AYAWEEK 実行委員	AYA 世代がんに関する啓発活動	南部美智子

老年看護学分野

過疎高齢化地域における高齢者および災害時要配慮者への防災対策に関する研究を行っており、主に教育プログラムの開発やシステム構築について研究している。研究テーマは、災害時要配慮者の避難支援、避難所生活における健康維持、災害時要配慮者にならないための介護予防対策、認知症高齢者の災害準備支援、高齢者福祉施設における避難計画など、産学官連携事業としても展開中である。また、フレイル傾向のある地域高齢者を対象とした運動機能および認知機能の維持・向上に関する研究を地元企業との共同研究で進めているほか、急性期病院の認知症ケアにおける倫理的対応力向上の為の教育プログラム開発に関する研究を行なっている。

<口述発表>

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
Effect of preventive care activities on physical fitness and quality of life among older adults aged 75 years and over	2023年3月	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS (Tokyo)	<u>Yuka Hattori</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Akiko Kitagawa</u>
STATUS OF EVACUATION PREPAREDNESS in the EVENT of TSUNAMI DAMAGE by DEMENTIA-CARE FACILITIES LOCATED in AREAS EXPECTED to BE INUNDATED by TSUNAMI	2023年3月	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS (Tokyo)	<u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , Yuka Hattori
Recognition of People Requiring Special Consideration during Disasters among Local Residents in the Coastal Areas of Western Japan	2023年3月	26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS (Tokyo)	<u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , Yuka Hattori, <u>Akiko Kitagawa</u>
STATUS OF ACTUAL STATUS OF EDUCATION AND TRAINING ON EVACUATION PREPAREDNESS IN THE EVENT OF TSUNAMI DAMAGE FOR DEMENTIA-CARE FACILITIES (GH) LOCATED IN AREAS EXPECTED TO BE INUNDATED BY TSUNAMI	2023年6月	IAGG Asia Oceania Regional Congress 2023 (Yokohama)	<u>Akiko Kitagawa</u> , <u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , Yuka Hattori
Effects of exercise using a wheelchair-mounted exercise device on frail older persons	2023年6月	IAGG Asia Oceania Regional Congress 2023 (Yokohama)	<u>Tokiko Isowa</u> , <u>Mayuko Hiramatsu</u> , <u>Akiko Kitagawa</u> , Yuka Hattori

<講演等>

演題名	講演会名 主催者	講演年月	講演者名	対象
災害時要配慮者支援 ～避難所生活での健康管理、 災害時要配慮者支援～	令和5年度防災講演会 柏崎自主防災会	2023年9月	<u>磯和勅子</u>	大紀町住民

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2019年度～2023年度 科学研究費補助金（基盤C）	高齢者福祉施設等における津波被害時の避難計画作成による防災対応システムの構築	研究代表： <u>北川亜希子</u> 研究協力： <u>磯和勅子</u> ， <u>平松万由子</u> ， <u>服部由佳</u>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021年度～2025年度 科学研究費補助金（基盤C）	地域互助力強化を基盤とした持続可能な高齢者防災システムの構築	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳
2021年度～2025年度 科学研究費補助金（基盤C）	認知症高齢者の災害準備力尺度の開発と実態解明	研究代表：服部由佳 研究協力：磯和勅子， 平松万由子，北川亜希子
2021年度～2025年度 科学研究費補助金（基盤C）	急性期病院の認知症ケアにおける看護職の倫理的対応力向上の為の教育プログラム開発	研究代表：平松万由子 研究協力：磯和勅子， 北川亜希子，服部由佳
2022年度～2027年度 科学研究費補助金（基盤B）	科学的介護情報システムを用いた包括的介護サービス研究	研究代表：百崎 良 研究協力：戸原 玄， 磯和勅子，堺 琴美， 若林秀隆，木下翔司， 山本吉則
中部電力（産学連携事業）	災害時要援護者対策および介護予防活動ならびに避難所運営支援の検討	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳
坂井電機（共同研究）	虚弱高齢者を対象とした車いす装着型の運動機器を用いた運動介入による効果	研究代表：磯和勅子 研究協力：平松万由子， 北川亜希子，服部由佳

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会	事務局	北川亜希子
日本認知症ケア学会	代議員	平松万由子
日本災害看護学会	代議委員	磯和勅子
日本災害看護学会	査読委員	磯和勅子

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重大学 みえ防災塾講師	講師	磯和勅子，平松万由子， 北川亜希子
三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座主催；事例相談会 （認知症サポート医フォローアップ研修会）	世話人	平松万由子
三重県 地域包括ケアシステムアドバイザー派遣事業	アドバイザー	磯和勅子，平松万由子
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者フォロー研修」	講師	磯和勅子

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
志摩市役所 介護・総合相談支援課「高齢期の運動指導者養成研修」	講師	磯和勅子
中勢認知症集談会	世話人	磯和勅子
附属病院ラダー研修「日常ケアから看護研究へ」	講師	磯和勅子

広域看護学領域

精神看護学分野

精神看護学分野では、教授（片岡）、講師（北）、助教（田村）の3名で運営している。本分野では精神障害者がその人らしい生活を送ることができる看護実践の具現化を目指して研究活動を行っている。一例として、精神障害者のリカバリーや当事者・精神科看護師のストレングスを活用した看護の構築を目指した研究（片岡）、うつ病患者の主観的症候を可視化する新たな生理学的指標に関する研究（北）、精神科看護教育の充実や腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーション・ソフトウェア開発に関する研究（田村）と、幅広いテーマで研究に取り組んでいる。

また、博士前期課程に3名、後期課程には2名の院生が所属している。大学院生が取り組む研究も、精神障害者やこころの健康が損なわれている当事者の目線を大切に研究、精神看護実践に直結する精神科看護管理者を対象にした研究を行っていることが特徴である。月に2回は博士前期課程と後期課程の学生が合同で研究進捗状況を話し合う機会をもち、当事者に還元できる質の高い研究を目指している。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
地域で暮らす統合失調症をもつ人の Personal Medicine	2023年11月	日本精神保健看護学会誌, 32(2), 23-31. DOI: 10.20719/japmhn.32.23-021	西田祐紀, 片岡三佳
Factors influencing the recovery-oriented attitudes of nursing directors in psychiatric hospitals: A cross-sectional study in Japan	2023年12月	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing DOI: 10.1111/jpm.13002	Yoko Matsui, <u>Mika Kataoka</u> , Susumu Tanimura
看護部長が認識する精神科病院入院患者のリカバリーに向けた実践に影響する要因	2023年12月	日本看護科学会誌, 43: 439-449	松井 陽子, 片岡三佳

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
アプリによる腎移植後レシピエント支援の検討	2023年2月	第56回日本臨床腎移植学会（東京都）	田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 服部文菜, 坂本竜太, 富家 淳, 西川晃平
入眠初期の睡眠ステージにおける睡眠時無呼吸症候群の有無による心拍変動の比較	2023年3月	第87回日本循環器学会学術集会（福岡市）	森脇佳美, 中山奈津紀, 赤堀真富果, 若井正一, 森川修司, 河野 葵, 大壁颯太, 北恵都子, 丹羽史織, 玉腰 浩司, 平井眞理
睡眠時無呼吸症候群患者の重症度と疾患予備群患者との睡眠中における心拍変動の違い	2023年3月	第87回日本循環器学会学術集会（福岡市）	中山奈津紀, 赤堀真富果, 若井正一, 森川修司, 森脇佳美, 河野葵, 大壁颯太, 北恵都子, 丹羽史織, 玉腰浩司, 平井眞理
Factors influencing recovery-oriented practices perceived by top nursing directors in Japanese psychiatric hospitals: A qualitative study	2023年3月	EAFONS2023 (Tokyo)	Yoko Matsui, <u>Mika Kataoka</u>
A 県の精神科訪問看護における ICT 活用に関する実態調査	2023年3月	第41回日本社会精神医学会	片岡諒太, 片岡三佳, 桐山啓一郎, 田村裕子

発表演題名	発表年月	学会研究会名 (開催地)	発表者名
アプリを活用した新型コロナウイルス感染症における患者管理の有用性と課題	2023年5月	第38回腎移植・血管外科研究会(新潟市)	田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 坂本竜太, 富家 淳, 西川晃平
新型コロナウイルス感染拡大期における精神看護学実習において学生が捉えた精神科医療の課題	2023年5月	日本精神保健看護学会第33回学術集会・総会(神戸)	大江真人, 片岡三佳, 田村裕子
入院歴のある地域で暮らす統合失調症者が体験する孤独	2023年5月	日本精神保健看護学会第33回学術集会・総会(神戸)	中井理賀, 片岡三佳, 大江真人
地域で暮らす統合失調症をもつ人の Personal Medicine	2023年5月	日本精神保健看護学会第33回学術集会・総会(神戸)	西田祐紀, 片岡三佳
虐待が起きづらくなるにはどのようにすれば良いのか、共に学びましょうーインクルーシブ Caféー	2023年5月	日本精神保健看護学会第33回学術集会・総会(神戸)	夫 清美, 福田久仁子, 福嶋美貴, 片岡三佳, 佐藤寧子, 安保寛明
アプリによるアドヒアランス向上に向けての支援の検討	2023年9月	第59回日本移植学会総会(京都市)	田村裕子, 渡部小央里, 浦和愛子, 佐々木典子, 坂本竜太, 富家 淳, 西川晃平
睡眠時無呼吸症候群患者の重症度による入眠初期の心拍変動および睡眠ステージの比較	2023年9月	第71回日本心臓病学会学術集会(東京都)	森脇佳美, 中山奈津紀, 赤堀真富果, 若井正一, 森川修司, 河野 葵, 大壁颯太, 新原桃香, 北恵都子, 丹羽史織, 玉腰浩司, 平井真理
睡眠時無呼吸症候群患者の重症度による自律神経活動指標の心疾患予備群患者との比較	2023年9月	第71回日本心臓病学会学術集会(東京都)	中山奈津紀, 森脇佳美, 赤堀真富果, 若井正一, 森川修司, 河野 葵, 大壁颯太, 新原桃香, 北恵都子, 片岡萌々華, 丹羽史織, 平井真理
希死念慮の改善の有無によるうつ病外来患者の副交感神経活動の違い	2023年12月	日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会(倉敷市)	北恵都子, 中山奈津紀, 新原桃花, 森脇佳美, 河野 葵, 大壁颯太, 岩田千代, 栗田 操
精神科看護管理者のリハビリ志向を高める教育プログラムの評価～実施後の面接調査より～	2023年12月	日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会(倉敷市)	松井陽子, 片岡三佳, 宮田千春
精神科病院における依存症看護専門チームが重要にしているケア	2023年12月	日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会(倉敷市)	三木俊貴, 中井理賀, 西田祐紀, 片岡三佳
精神科病院入院患者のリハビリに向けた実践に影響する要因: 男性看護部長に対する面接調査から	2023年12月	第43回日本看護科学学会学術集会(山口)	松井陽子, 片岡三佳

<公的機関，民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2016～2023年度 科学研究費助成事業(若手研究B)	生体臓器移植レシピエント・ドナーのアドヒアランスに関する研究	田村裕子
2022～2025年度 科学研究費助成事業(基盤研究C)	うつ病患者の主観的なうつ症状を可視化する生理学的指標を用いた新たな指標の開発	北恵都子，中山奈津紀， 奥村太志
2022～2024年度 科学研究費助成事業(基盤C)	腎移植レシピエントの精神面を支えるアプリケーション・ソフトウェア開発と効果の検証	田村裕子，西川晃平， 岡田元宏
2023年度～2027年度 科学研究費補助金(基盤研究C)	ウェアラブルデバイスを活用した精神障害者の自己治癒法を促す訪問看護モデルの構築	片岡三佳，桐山啓一郎， 田村裕子

<学会における活動>

名称	活動内容	活動者名
日本精神科看護協会	査読委員	北恵都子
三重看護学誌	査読委員	北恵都子
三重看護研究会誌	査読委員	北恵都子
日本看護研究学会	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会	代議員，査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会社会貢献委員会	副委員長	片岡三佳
日本看護科学学会	代議員，査読委員	片岡三佳
The Journal of Nursing Investigation	編集委員，査読委員	片岡三佳
医学と生物学	査読委員	片岡三佳
日本精神保健看護学会第33回学術集会・総会	座長，査読委員	片岡三佳
第43回日本看護科学学会学術集会	座長，査読委員	片岡三佳
三重看護研究会	副理事長，編集委員長	片岡三佳
第6回三重看護研究学術集会	副大会長，企画委員	片岡三佳

<社会的活動>

名称	活動内容	活動者名
日本精神科看護協会岐阜県支部	看護研究発表会講評	北恵都子
日本精神科看護協会三重県支部	看護研究発表会講評	北恵都子
三重県立子ども心身発達医療センター	プロセスレコード研修講師	北恵都子
新しい精神障害者の地域生活支援を考える会「笑抱の会」	企画運営	片岡三佳
兵庫医科大学大学院	非常勤講師(看護倫理)	片岡三佳

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
浜松医科大学大学院	非常勤講師 (看護コンサルテーション論)	片岡三佳
大阪暁光高等学校看護専攻科	非常勤講師 (精神看護学概論)	片岡三佳
令和5年度 三重県精神保健福祉基礎研修会【基礎技術編】「精神科領域における本人・家族への関わり方の基本」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会 「ストレングスアプローチを用いた共育の試み」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会 「レベルⅢ 日常ケアから看護研究へ 看護研究とは」	講師	片岡三佳
三重大学附属病院研修会 レベルⅤ 看護研究「研究計画書の書き方」	講師	片岡三佳

在宅看護学分野

在宅看護学分野では、地域生活を送る精神障害者への支援に関する研究を行っている。研究テーマは、リカバリーの先駆者である Deegan が提言した Personal Medicine の実践化に向けて研究に取り組んでいる。研究を進めていく中で、同所属の精神看護学分野の片岡三佳教授より精神看護学の視点からご助言を賜り、研究の質を向上させている。本年5月に学会発表し、11月に論文化につなげることができた。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻(号): 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
地域で暮らす統合失調症をもつ人の Personal Medicine	2023年11月	日本精神保健看護学会 誌 32(2): 23-31	西田祐紀, 片岡三佳

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
地域で暮らす統合失調症をもつ人の Personal Medicine	2023年5月	日本精神保健看護学会 第33回学術集会・総 会(神戸)	西田祐紀, 片岡三佳
精神科病院における依存症看護専門チ ームが大切にしているケア	2023年12月	日本精神障害者リハビ リテーション学会第30 回岡山大会(倉敷)	三木俊貴, 中井理賀, 西田祐紀, 片岡三佳

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
三重看護研究会	学会事務局	西田祐紀

地域看護学分野

地域看護学分野では、国内外を調査フィールドとして、地域住民の健康に資する科学的根拠を創出する研究を大学院生とともに展開している。国内研究では、スマホによる交流や子どもを対象とするボランティアなどの社会参加が高齢者のフレイル予防と関連することを明らかにした (Saeki et al., 2023)。これまで空間疫学に関する分析手法の改善や課題の整理 (谷村, 2023a) など理論的基盤整備に注力してきたが、近年は、空間疫学を取り入れた具体的な応用事例の展開に軸足を移している。例えば、特定健診受診率と人口当たり保健師数の関連を究明した (Mizutani et al., in press)。また、インドネシアの小児肥満に父親の肥満や両親の食事摂取の認識が関連すること (Oktaviani et al., 2023) を解明した。本分野では、これらの研究成果をもとに、新たな研究プロジェクトを開始している。また、これらの研究に加えて、疫学・統計学を担当する研究教育分野として、看護研究における疫学・統計学的手法の整理 (谷村, 2023b) も継続して行っている。

<原 著>

学 術 論 文 の 名 称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
Factors associated with overweight/obesity of children aged 6-12 years in Indonesia	2023 年 9 月	BMC Pediatrics. 23(1): 484	Oktaviani S, <u>Mizutani M</u> , Nishide R, <u>Tanimura S</u>
Types and frequency of social participation and comprehensive frailty among community-dwelling older people in Japan	2023 年 9 月	Preventative Medicine Reports. 36:102443	Saeki N, <u>Mizutani M</u> , <u>Tanimura S</u> , Nishide R
Spatial clusters of high participation rates for specific health checkups among prefectures in Japan and their regional factors	2023 年 9 月 採 択 (2024 年 1 月公開予定)	Journal of St. Luke's Society for Nursing Research	<u>Mizutani M</u> , Nishide R, Saeki N, <u>Tanimura S</u>
Factors influencing the recovery-oriented attitudes of nursing directors in psychiatric hospitals: A cross-sectional study in Japan	2023 年 12 月	Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing 00:1-15	Matsui Y, Kataoka M, <u>Tanimura S</u>
Experiences with smoking habits and the need for cessation among habitual smokers in Japan: a qualitative study based on semi-structured interviews	2023 年 12 月 採 択 (2024 年 1 月発行)	BMC Primary Care. 25(1): 1	Shiratani K, Shimasawa J, <u>Mizutani M</u>

<総説, 報告, 資料, 論説, 解説, その他>

総説, 報告, 資料, 論説 解説, その他の名称	発 行 年 月	発 表 誌 名 巻 (号) : 頁	著 者 ・ 共 著 者 名
異文化看護データベース インドネシア	2023 年 3 月	日本看護科学学会ウェブ サイト	水谷真由美, Sofi Oktaviani, 佐伯南々子
地域在住高齢者における社会参加の内容種別と健康の縦断的関連: 文献レビュー	2023 年 3 月	三重看護学誌 25: 1-15	佐伯南々子, <u>水谷真由美</u>
看護研究におけるサンプルサイズの考え方	2023 年 3 月	三重看護学誌 25: 59-70	谷 村 晋
Association between socioeconomic factors and metabolic syndrome prevalence in Mie Prefecture: Spatial regression models	2023 年 3 月	三重看護研究会誌 6(1): 31-36.	<u>Mizutani M</u> , Nishide R, Saeki N, <u>Tanimura S</u>
わが国の病院・診療所・助産所勤務助産師における妊婦の冷え症に対する認識の検討—テキストマイニングによる自由回答の分析	2023 年 3 月	三重看護研究会誌 6(1): 37-48.	近藤桃子, 安積陽子, 谷 村 晋, 村端真由美
未就園児を養育する無職の母親の自覚的健康状態に関連する要因	2023 年 5 月	日本健康医学会雑誌 31(4): 485-492	河田志帆, <u>水谷真由美</u> , 西井崇之, 畑下博世

<口述発表>

発 表 演 題 名	発 表 年 月	学 会 研 究 会 名 (開 催 地)	発 表 者 名
空間疫学を援用した特定健康診査の高受診率地域クラスターの検出とその地域要因	2023年9月	第28回 聖路加看護学会学術大会(オンライン開催)	水谷真由美, 西出りつ子, 佐伯南々子, 谷村 晋
COVID-19の政策実務を担う保健所職員が自覚するストレスの職種別相違	2023年11月	第82回 日本公衆衛生学会総会	塩見美抄, 平 和也, 岩瀬裕三子, 岩崎加奈, 田淵沙也香, 板谷崇央
空間スキャン統計量を用いた疾病の地域集積性検出における近隣リストの感度分析: 2021年脳梗塞死亡データによる検討	2023年12月	2023年度 統計数理研究所共同研究集会「データ解析環境Rの整備と利用」(立川市)	谷村 晋

<公的機関, 民間等との研究上の協力状況>

研究補助機関名	研究課題	研究者名
2021~2023年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究C)	循環器疾患死亡と水道水硬度の関連: 予防的効果に関する空間疫学的検討	谷村 晋
2020~2023年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業(若手研究)	インドネシア農村PD女性を援用した地域健康推進員と協働する定期的血圧測定RCT	水谷真由美
2021~2023年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究C)	管理期自治体保健師のキャリア・アンカーの特徴と創造性・挑戦指向の萌出・発達の好機	西出りつ子, 水谷真由美, 谷村 晋, 白石知子
2023~2025年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究C)	孤立出産のリスク要因とポジティブデビアンによる強化的要素の解明と支援策の構築	坂東春美, 五十嵐稔子, 水谷真由美
2023~2027年度 日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究C)	習慣的喫煙者へのICTによるピア相互作用を用いた対象特性格ループプログラムの開発	白谷佳恵, 嶋澤順子, 水谷真由美

<学会における活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
日本国際保健医療学会	代議員	谷村 晋
日本公衆衛生学会	編集委員, 代議員	谷村 晋
日本公衆衛生学会	査読委員	水谷真由美
びわ湖国際医療フォーラム	世話人	水谷真由美
第41回びわ湖国際医療フォーラム	座長	水谷真由美
第28回聖路加看護学会学術大会	座長	水谷真由美

<社会的活動>

名 称	活 動 内 容	活 動 者 名
神戸大学	非常勤講師	谷村 晋
鈴鹿医療科学大学	非常勤講師	谷村 晋
愛知県立大学	非常勤講師	谷村 晋
滋賀県立総合保健専門学校	非常勤講師	水谷真由美
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 地球規模保健課題解決推進のための研究事業	評価委員	谷村 晋
三重県建築審査会	委員（公衆衛生）	水谷真由美